

2025年度 事業報告

施設名 ガーデンエル

施設長名 六川徳子

| | | | |
|----|-------|----|----|
| 種別 | 乳児院 | | |
| 設立 | 2010年 | 4月 | 1日 |
| 認可 | 2010年 | 4月 | 1日 |

*2025年度事業計画に対する評価

- ・里親支援機関 B 型はロイと協力し、新規里親開拓のための広報活動、地域の里親会や MY 里親 13 家庭（養育里親 5 家庭、養子縁組里親 8 家庭）への支援を継続できた。
- ・大規模自然災害への備えとして、BCP を整備し、災害への備えやロイとの連携、施設内の減災について、見直す機会を持つことができた。
- ・定員 24 名での運営となったが、出来る限り入所依頼に応えたことで、安定した運営ができた。ただ、乳児ホームが 1 ホームのため、一歳以上の依頼に比べて、乳児の依頼を断ることが多く、ホーム編成を含めて、どう対応するかが課題となっている。
- ・措置変更等での施設移動だけでなく、0 歳ホームから 1 歳以上のホームに移動する際にも、慣らし保育を実施しており、その手順や期間について、マニュアルを含めて整理することが出来た。
- ・人材育成について、新任職員については月 1 回のスーパーバイズが実施でき、丁寧な指導にもつながっている。2 年目以上のスーパーバイズは時間を確保することが難しく、定期的には実施できないペアが多くあった。スーパーバイズ等の時間が確保できるよう、人材確保だけでなく、間接業務の見直しも行う必要がある。
- ・新型コロナウイルスは職員まで感染が広がり、終息までに時間を要した。インフルエンザは児童 1 名、職員 2 名の感染で抑えることが出来た。また、乳児ホームで胃腸炎が流行することもあり、汚物の処理、部屋や玩具の消毒等を見直しながら周知した。
- ・ショートステイは、定員内で出来る限りの対応をしたが、全ての依頼を受けることは難しく、総数は前年度に比べて少なくなっている。
- ・第三者評価を受審。これまでの課題への取組について、一定の評価を受けた。これからの取組について整理することが出来た。

1. 事業運営の概況

| | | | | |
|------|---------|------|------|-----|
| 認可定員 | ひよこ(乳児) | たんぽぽ | ひまわり | さくら |
| 24名 | 6 | 6 | 6 | 6 |

2. 保育実績

① 在籍児数（各月 1 日現在在籍数：措置児童のみ）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 0才児 | 2 | 2 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 4 | 37 |
| 1才児 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 | 6 | 6 | 7 | 7 | 7 | 6 | 5 | 70 |
| 2才児 | 3 | 3 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 29 |
| 3才児 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 5才児 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 措置児合計 | 10 | 10 | 10 | 12 | 14 | 13 | 12 | 13 | 12 | 10 | 10 | 11 | 137 |

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 一時保護 | 8 | 10 | 11 | 9 | 6 | 3 | 7 | 8 | 8 | 10 | 10 | 10 | 100 |
| ショート(含里子) | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 |

〈結果と考察〉

- ・一時保護依頼の約 60% が 0 歳児であり、乳児ホームの定員もあり、すべての依頼に応えることはできなかった。
- ・一時保護から措置になった児童が 8 名、措置で入所した児童は 3 名であった。これまでに比べて、長期入所となる児童が増えている。
- ・前年度に比べて、措置入所となる児童が増えたが、それでも約半数が一時保護児であった。

② 職員構成（年度末時点、上段に実数、下段に最低基準を記入）

| 職種 | 施設長 | 児童指導員 | 看護師 保育士 | 事務員 | 家庭支援専門相談員 | 個別対応職員 | 基幹的職員 | 栄養士・調理員等 | 嘱託医 | 心理療法担当職員 | 里親支援専門相談員 | 指導員特別加算 | 小規模グループケア加算 | 入所児童処遇特別加算 | その他 | 合計 |
|---|-----|-------|------------|-----|-----------|--------|-------|----------|-----|----------|-----------|---------|-------------|------------|-----|----|
| 実数 | 1 | 19 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 | 1 | 6 | 46 | |
| 定数 | 1 | 18 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 | |
| 〈結果と考察〉 ・配置基準は満たしているものの、年度途中含め5名の退職、2名の産育休取得者が出たため、実態としては思い描くような職員配置ができなかった。特に入職1年目の中途採用者2名が年度末にかけて退職したため、人材育成の部分で徒労感が表れる結果となった。課題となっていた看護師の高年齢化に対しては、人材紹介を利用し20代の職員1名確保できたことは成果だった。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

3. 園児の処遇実績

イ) 健康管理

| 定期健康診断 | 測定・検査など |
|--|--|
| 嘱託小児科医による健康診断を年2回実施。 母子保健法に基づく健診 （東保健センター）4カ月、一歳半、三歳半 （嘱託医）後期 | 身体測定：0歳月2回、1歳以上月1回実施。（特例あり） 体重測定：0-1か月毎日、0歳週2回、1歳以上月1回実施 （特例あり） 予防接種：嘱託医の協力のもと、公費負担の無い種類も含め 月齢に応じ計画的に実施。 |

ロ) 栄養管理（食事・おやつ）の取組み

- ・大阪いずみ市民生協から安全安心な食材の購入を心掛けている。
- ・おやつは、手作りを重視して、季節感のあるものを提供している。
- ・近隣の方より、野菜や果物などの寄贈があり、食事として提供している。

《離乳食》

- ・離乳食は個別のトレーで、名札を付けて提供している。
- ・ミルク量と離乳食の進め方を作成し、ホーム職員と知識、情報を共有しながら進めた。
- ・離乳食の進み方は個人差が大きいので、個々に離乳食進行表を作成している。
- ・魚、豆腐、卵等の提供の初めにはアレルギーの起因となることも多いので、特に卵や小麦に関しては、提供から48時間の体調スコアリングを行い、問題がなければ次の段階へ進める連絡体制をとっている。
- ・厨房職員は離乳食の食べ方や大きさ、固さ、粘度などを確認出来るようにホームに入り、喫食状態を確認している。

《アレルギー対応》

- ・アレルギー除去食では、献立に除去食品をマーカーでチェックした専用の献立表と写真入りの個人票を作成。個人票と一緒に食事を提供し、照らし合わせて職員に伝えている。食器を変えてアレルギー対応食とわかりやすくしている。

《病児への対応》

- ・子どもの体調不良時は、体調に合わせて、病児食事（おじや、うどん、消化に良い食事）を提供している。
- ・感染症が蔓延した際は、献立の変更を行い、十分な栄養の確保を目指した。

《備蓄》

- ・炊出し訓練や備蓄食材の入替時に、子どもも職員も試食し、より食べやすいものを備蓄するよう見直した。
- ・食材ロスを減らす観点から、備蓄食材をローリングストックに切り替えた。
- ・水はエルロイの大人子ども合わせて80名×1日3リットル×6日分で備蓄できるようにした。

《食育》

- ・月1回実施、季節感のあるものを取り入れる、また、エルで栽培したものを使用するよう計画した。

ハ)年間行事

| |
|---|
| <p><行事の取り組み方> ガーデンエルは各ホーム6名の小規模グループケアであり、一般の入所施設であるような運動会や遠足等全体行事を実施していない。ホーム単位による、家庭的な日々の取り組みに努めている。</p> |
| <p><結果と考察> ・日々の活動で、近隣への散歩だけでなく、商店街、ショッピングモールへの買い物へ出かける等、社会経験の機会を持つことが出来た。 ・お誕生日のお祝いはホームでのお誕生日会に加え、半日の個別外出ができています。 ・助成金を受け、七五三の記念写真を写真館で撮る体験もできた。 ・春にはお花見を全ホームで実施し、秋にはホームごとで、半日外出を実施した。 ・家庭菜園で野菜を育てて収穫して食べる、食材に触れる、調理する等の食育を毎月実施した。</p> |

ニ)安全管理

| | |
|---------|---|
| 火 災・地 震 | 火災、及び地震から火災の想定で、毎月、避難訓練を実施。ロイとの合同訓練を2回、全体消防訓練を消防署の協力の下、11月30日に実施した。 |
| 救急救命 | 指導資格を持った看護師による救急救命講座3(乳幼児対象)を4人ずつ順に受講した。 |
| 防 犯 | 不審者対応訓練は警察署協力の元10月23日に実施。 |
| 衛 生 | 感染症予防のための手指消毒の徹底、日々の消毒を見直しながら実施した。 |

ホ)賠償保険等の加入状況(利用者対象)

| 保険種別 | 会社・団体名 | 補償内容(金額) |
|----------|-----------|----------|
| 施設賠償責任保険 | 共栄火災海上保険㈱ | 対人2億円 |

4. 職員処遇の実績

イ)職員の健康管理

- ・定期健康診断 年2回、検診内容(胸部X線、血圧、尿、心電図、問診、血液検査他)健康診断の結果は、枚岡医師会の協力のもと、医師の意見聴取を実施。
- ・検便 栄養士 年24回、調理員 年24回、保育士・指導員・看護師 年12回
- ・インフルエンザ予防接種

ロ)労務管理

- ・育児・介護休業等に関する規則の改訂
- ・給与退職金規程の改訂

ハ)職員会議(高齢除く)

| 内容 | 実施回数(開催時間) |
|------------------------------|---------------|
| 主任会 | 月1回 13-15時 |
| ユニットリーダー会議 | 月1回 13-15時 |
| エル会議 (職員会議) | 月1回 13-14時30分 |
| 危機管理委員会 (防災、防犯、訓練の実施等に関して) | 月1回 13-14時 |
| 保健衛生会議 (保健衛生、医療面全般) | 月1回 13-14時 |
| 共有会議 (ケース情報の共有、不足情報の確認) | 月1回 14-15時 |
| 各ホーム会議 (子どものこと、ホーム全般について) | 月1回 13-15時 |
| ごちそう会議 (食事おやつ、栄養面全般) | 月1回 13-14時 |
| ケース会議 (支援計画作成を含む) | 随時 |
| 子どものための委員会 (支援上の課題共有、解決) | 月1回 1時間 |
| エルロイ里親支援会議 (里親支援機関B型の運営に関して) | 月1回 10-11時 |

ニ)研修実績(イエス団含む)

| No | 研修名 | 主催者 | 研修内容 | 開催年月日 | 参加人数(職種毎) |
|----|-------------|------------|----------------|-------|-----------|
| 1 | サービスマナー(新人) | 大阪府社会福祉協議会 | 社会人、組織人としての心構え | 4/21 | 1(保育士) |

| | | | | | |
|----|-----------------------------|---------------------------------------|---|---|-------------------------|
| 2 | 児童施設課程基礎 I | 大阪府社会福祉協議会 | 児童福祉の現状、施設職員としてのあり方 | 5/15, 23 | 1 (保育士) |
| 3 | 「安心の輪」子育てプログラム実践のためのフォローアップ | Chircle of Security Parenting Program | COSP を子育て世帯に届けるために | 5/18 | 1 (心理士) |
| 4 | ブラッシュアップ研修 | イエス団 | 今の自分を見つめ、これからの課題を探る 現場での体験を出し合い、仲間と共有する 「イエス団で働くこと」の意味を理解し深める | 6/6, 7 | 1 (保育士) |
| 5 | キャリアパス対応生涯中堅研修 | 大阪府社会福祉協議会 | 福祉サービスの基本理念 中堅職員として役割行動 人権を考える | 6/10、 20. 27 | 1 (保育士) |
| 6 | 乳児院合同アウトリーチ研修 | チャイルドリソースセンター | 「安心感の輪」 | 6/12 7/17 8/28 9/25 10/9 11/20 | 2 (保育士) |
| 7 | 近畿乳児福祉協議会 | 近畿乳児福祉協議会 | 「明日を担う子どもと家族」その支援やアドボケートのありかたについて考える | 6/26-27 | 4 (施設長・保育士・調理員・里親支援) |
| 8 | イエス団全体主任会 | イエス団 | イエスに倣って生きる | 7/4 | 1 (保育士) |
| 9 | 職員の離職防止のための研修 | 大阪府社会福祉協議会 | 世代を知る | 7/16 | 1 (施設長) |
| 10 | 全国乳児院研修会 | 全国乳児福祉協議会 | 各施設の取り組みを共有し乳児院職員としての専門性を向上させることを目的とする | 7/30-31 | 1 (栄養士) |
| 11 | スーパーバイザー養成基礎研修 | 大阪府社会福祉協議会 | やりがいをもって働き続けるために対人援助の実践力をともに育もう | 7/29 | 1 (保育士) |
| 12 | 乳児院指導者研修 | 西日本子ども研修センター | 乳児院における予防的支援と子どもや親から信頼されるチームアプローチのあり方、子どもと家族の支援に関わる関係機関との連携について | 8/20-22 | 1 (保育士) |
| 13 | 会計管理者担当者研修 | 大阪府社会福祉協議会 | 運営管理者と会計管理者の連携のもと経営面での組織運営に役立てる | 9/19 | 1 (事務長) |
| 14 | FDW 養成講座 | チルドリソースセンター | 親のアセスメント | 9/12、13 11/21, 28 1/16 | 1 (保育士) |
| 15 | 子どもの脳を傷つけない関わり | 大阪府社会福祉協議会 | 保育者として出来る事 | 9/22 | 7 (保育士・看護師) |
| 16 | 接待マナーの基本 | チャイラボ | 接待マナー | 9/24 | 1 (家庭支援) |
| 17 | 全国里親会 | 全国里親会 | すべての子どもに家庭が必要～里親家庭で共に未来を～ | 10/11. 12 | 1 (里親支援) |
| 18 | 全国乳児院協議会 | 全国乳児院協議会 | 地域との連携協働で支える子どもと家族 | 10/23. 24 | 2 (施設) |

| | | | | | |
|----|-------------------------|-------------------|--|-----------------|----------------|
| | | | | | 長・栄養士) |
| 19 | キャリアパス対応生涯中堅研修 | 大阪府社会福祉協議会 | 福祉サービスの基本理念 中堅職員として役割行動 人権を考える | 10/14.23 .30 | 1 (保育士) |
| 20 | 階層別人権研修 | 大阪府社会福祉協議会 | 人権 | 11/4~ 11/26 | 1 (保育士) |
| 21 | 新人研修フォローアップ | イエス団 | イエス団で働く | 11/15 | 4 (保育士・栄養士) |
| 22 | 日本子ども虐待防止学会大会 | 日本子ども虐待防止学会 | 考えよう子どもの権利 | 11/15, 16 | 2 (施設長・心理士) |
| 23 | 近畿乳児福祉協議会 職種別研修会(栄養士部会) | 近畿乳児福祉協議会 | 料理を作り食事を用意する役割 | 11/20 | 1 (栄養士) |
| 24 | 要保護児童対策地域協議会スキルアップ研修 | 東大阪市 | 知っているようで知らない愛着について理解を深めよう | 11/21 | 1 (家庭支援) |
| 25 | 社会的養護を担う児童福祉施設長研修 | 全国社会福祉協議会 | 施設長に求められる役割などについて研修し、専門性の向上を図る | 12/4.5 | 1 (施設長) |
| 26 | OJT リーダー養成 | 大阪府社会福祉協議会 | 時代に合った人財育成法を学び、活用しましょう。 | 1/7.8.27 | 1 (保育士) |
| 27 | イエス団ブラッシュアップ | イエス団 | 6月の研修の振り返り | 1/10 | 1 (保育士) |
| 28 | 看護師部会 | 近畿福祉協議会 | 効果的な支援を行うための技術獲得専門性の向上を目指す。 | 1/20 | 2 (施設長・保育士) |
| 29 | 心理士グループSV | 小鳩乳児院 | ケース検討の中での永田雅子氏SV | 2/5 | 1 (心理士) |
| 30 | 保育士部会 | 近畿乳児福祉協議会 | 子どもの権利擁護を軸に日々の養育を振り返り日常の中にある子どもの権利に気づきその真意をつかみ、実践できる養育者となる事を目指す。 | 2/12 | 1 (保育士) |
| 31 | 乳児院医療看護セミナー | 全国社会福祉協議会 | 医療、看護に携わる職員が専門的な知識や技術などを学ぶとともに各施設の取り組みの共有、乳児院養育、支援に特化した医療、看護の専門性の向上を図る | 2/18 | 1 (看護師) |
| 32 | 職種別研修会(家庭支援・心理・里親支援) | 近畿乳児福祉協議会 | 子どもと養育者の関係性とその支援について～家族再統合支援活動から感じること アタッチメントの視点を中心に～ | 3/2 | 1 (家庭支援) |
| 33 | 職種別研修会(施設長・事務員等部会) | 近畿乳児福祉協議会 | 地域にひらく乳児院 -子育て世代の強力な味方になるために- | 3/12 | 1 (施設長) |
| 34 | テーマ別研修 | 子どもの虹研修センター | 「今、死亡事例から学ぶーこれまでの課題を超えて」 | 3/12 | 1 (里親支援) |
| 35 | 発達障害・専門講座 14 | 言語以前のこころの問題へアプローチ | コミュニティー・レジリエンスを育むー言語以前のこころの問題へアプローチ | 3/25 | 1 (心理士) |

| | | | | | |
|---|----------|------|---|---------|--|
| 36 | イエス団新人研修 | イエス団 | イエス団の理念を理解し、職員としての使命を考える。新しい職場に入っていく準備をする。感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合う事の大切さを学ぶ。 | 3/24-25 | 1 (保育士) 1 (看護師) 1 (児童指導員) |
| <p><結果と考察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回の研修にほぼ全員が参加することができた。職員会議で研修内容の共有を行っている ・参集型、オンライン型等、色々な形の研修に参加できている。 ・参加した職員の学びになっているので、エルのより良い支援につなげられるように共有の仕方や仕組みづくりをすることが課題となっている。 | | | | | |

ホ) 福利厚生<退職共済制度(機構・府県・市)、福利厚生制度等>

- ・ 社会福祉施設職員等退職手当共済制度(福祉医療機構)
- ・ 大阪民間社会福祉事業従事者共済会

5. 子育て支援・地域との交流の報告

- ・ リサイクルや清掃委託で、近隣の障害者施設と連携している。
- ・ 子育て支援として、東大阪市だけでなく、大東市、八尾市ともショートステイ事業を委託契約し、定員内で、地域の子どもを受け入れている。
- ・ 里親支援専門相談員を中心に、地域の里親会を支援している。広報活動として、東大阪市役所やアリオ八尾、花園ラグビー場で里親相談会を実施。また映画上映による広報活動も行った。
- ・ サマーボランティア、抱っこボランティア等々様々なボランティアを受け入れている。定期的な活動もあり、職員、子ども達ともに良い刺激となっている。
- ・ 東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に参加することができた。

6. 施設・設備の整備の実績(項目、金額、実施月等、10万円以上記載)

| 整備の名称 | 金額 | 勘定科目 | 財源 | 実施月 |
|-------------|---------|--------|-----|-----|
| 蓄熱電気暖房機 | 288,530 | 器具及び備品 | 措置費 | 8月 |
| 出入口引き違い戸更新 | 404,800 | 修繕費 | 措置費 | 8月 |
| 裏門スロープ化工事 | 407,000 | 構築物 | 措置費 | 9月 |
| 地域交流スペース床修繕 | 440,000 | 修繕費 | 措置費 | 11月 |
| 洗濯機 | 118,030 | 器具及び備品 | 措置費 | 2月 |
| 避難車 | 292,000 | 器具及び備品 | 措置費 | 3月 |
| 浴室脱衣場暖房機 | 174,900 | 器具及び備品 | 措置費 | 3月 |

7. 会計決算の状況

- ・ 2025年度より認可定員が24名に変更となったため事務費が380万減となったが、延べ入所児童数が16%増となったことから事業費が760万円増となった。2024年度は大規模修繕により、補助金事業収入が1730万円であったため、補助金事業収入(公費)を差し引くと前年度より定員3名が減ったが、単価改定や加算収入が増えたため収入としてはほぼ変わらない状況となった。
- ・ 職員給与のベースアップを行い、期末賞与で資金余剰が見込めたため1ヶ月分を上乗せして支給も行なうことができた。
- ・ 最終的には、490万円を人件費積立金として、3,960万円を施設整備としてその他の特定積立金に積立ができた。

8. その他

- ・ 特になし。